

『外国語と日本語との対照言語学的研究』 第23回研究会

2017年12月9日(土) 14:00 ~ 17:50

東京外国語大学 研究講義棟 226 講義室
＜一般公開・参加費無料＞

14:00 ~ 15:00 発表「話しことばにおける自動詞と他動詞の使用—親子談話の分析—」
鈴木 陽子氏 (東京外国語大学: 言語学)

15:10 ~ 16:10 発表「モンゴル諸語における非定形動詞の定形用法の発達: 日本語との若干の対照」
山越 康裕氏
(東京外国語大学: モンゴル諸語)

16:20 ~ 17:50 講演「日本語社会はなぜ発話の非流ちょう性に寛容なのか」
定延 利之氏
(京都大学: 言語学、コミュニケーション論)

概要: 日本語社会では、「言いよどんでフィラーを発する」「文節単位でコマギレでしゃべる」「つかえて音を伸ばす」といった非流ちょうな発話法が、公的な演説においても、話者の無能力と別段結びつけられず容認される傾向があり、「権威者」専用のつかえ方さえ発達している。なぜこのようなことになっているのか、語用論的・文法論的観点から答を探りたい。

対照日本語部門

谷口龍子 大谷直輝 成田節 早津恵美子 降幡正志 峰岸真琴 三宅登之

お問い合わせ: 東京外国語大学 国際日本研究センター
電話: 042-330-5794 メール: info-icjs@tufs.ac.jp